

和光の四季

和光市の自然には豊かな四季があります。春の桜の見どころは多く、夏には小さいながらも深い緑に覆われる森、そして晩秋には市の木であるイチチョウが見事な黄金色になります。冬は快晴の日の合間に雪景色が楽しめることもあります。



和光樹林公園の桜



和光の北端 荒川の夏空



熊野神社の大イチョウ



大坂ふれあいの森の雪

白子富澤湧水の湧き水は水量が豊かで、四季を通して水温17℃。夏は冷たく、冬は温かく感じます。



地形と地質・湧き水の仕組み

和光市は南西側に武蔵野台地が広がり、北東側は荒川・新河岸川の低地になっています。

図1では、標高20mより台地側を黄色、低地側を緑色で示しています。東京都との境に白子川、市の中ほどを谷中川、朝霞市との間に越戸川が流れ、台地をけずって谷を作り、坂の多い起伏に富んだ地形をしています。市内の緑地の多くはこの谷に沿った斜面にあり、その斜面の下に湧き水の多いことが和光市の特徴です。



図1

図2は和光市の台地の地層の模式図です。標高約40mの台地上部には関東ローム層(赤土)中程に石ころの多い武蔵野れき層、その下に粘土質の東京層があります。東京層は約10万年より前に浅い海で堆積した地層、武蔵野れき層は、その後古い多摩川が運んできた河原の石を含む地層、ローム層は箱根や富士など火山が噴出した火山灰が堆積した地層です。

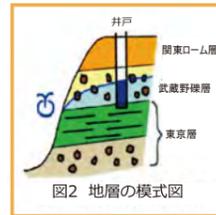


図2 地層の模式図



富澤湧水

白子の富澤湧水では、台地に降った雨が地中にしみ込み、粘土質の東京層にさえぎられ、地下水となつてれき層と粘土層との境目から湧きだしています。湧き水の仕組みがわかることです。

その地下水を集める色々な方法がありパイプから流れ出す豊富な湧き水も見られます。

貴重な野草

和光市の緑地では色々な珍しい野草を見ることができます。その中には、日本国内や埼玉県内で、絶滅の恐れがある貴重なものもあります。そんな野に咲く花を大切に目撃して下さい。



- | | |
|------------|------------|
| 1 ヒロハアマナ | 2 フデリンドウ |
| 3 カタクリ | 4 キンラン |
| 5 イチリンソウ | 6 ヤマブキソウ |
| 7 タマノカンアオイ | 8 キツネノカミソリ |
| 9 ホトトギス | 10 ナガエミクリ |

和光のカタクリ

和光市で見られる貴重植物の代表はカタクリかもしれません。白子川沿いの斜面林のある大坂ふれあいの森や、白子の滝の上部に自生し、和光市駅北側の漆台洗い場付近にも美しい群落が見られます。



早春：カタクリとフキノトウ

和光市に隣接する練馬区の清水山憩いの森には大群落があり、保護が行き届いた美しいお花畑です。白子の滝上部は特に急斜面で、立ち入れません。大坂ふれあいの森では、クマザサやベニシダと混じり、急斜面で数が増えています。観察しやすい場所ではありません。

さて、カタクリは「氷河時代の生き残り」といわれる埼玉県での準絶滅危惧種です。氷河期に繁栄した種が、東北地方などの北国や

関東地方の高山へ移り、多く見られます。和光市のような平野部では、地下水脈や湧き水に近い北～北東向きの落葉樹の斜面林で生き残りました。地下水の蒸発で、夏でも涼しく感じられる場所で生き延びた貴重植物です。春、落葉樹の葉が茂る前に葉を広げ、花を咲かせ、実を付けて森の緑が濃くなるころには地表から姿を消す春植物です。



白花のカタクリ

地球温暖化の時代、カタクリが残ることが、和光の環境の指標になるのではないのでしょうか。

身近な自然の保護

和光市には自然緑地やふれあいの森、特別緑地保全地区などの緑地があります。その他に都市公園や社寺林、校庭や個人のお宅の庭、街路樹、花壇など市民に潤いを与える多様な「みどり」があります。

特に前者のふれあいの森などの緑地は「自然」を保ち、自然とのふれあいや環境を学ぶ場としての役割があります。このような場所を維持する上で、「保全」は大切です。

都市部の緑地は、注意深く人手を加えて保つ自然であり、放置するとゴミ捨て場や、外来植物のはびこる荒地となってしまいます。自然と触れ合える環境を整えるため、「生物多様性」や「持続可能な生態系」を維持する「保全」が必要です。

新倉ふれあいの森や大坂ふれあいの森、白子宿特別緑地保全地区は、貴重植物も多く、湧水を取り巻く環境として多様な生き物が見られる大切な環境です。自然とのふれあいや観察会などにも利用できる環境として、その「自然」を保護し、後世に残していきたいものです。



湧き水のほとりでの観察会



竹林の保全を兼ねた竹の玉掘り



里山保全ボランティア体験



雪で倒れた樹木の除去作業

白子川と越戸川

和光市の南側から東側に白子川が流れています。源流は東大泉の公園で、約10kmで新河岸川に注ぎます。その右岸(上流から見て右側)は主に練馬区と板橋区で、左岸が和光市です。第五小学校付近から上流には川沿いに道があり、左岸に越後山の斜面林があります。練馬区側には、カタクリが群生し湧き水のある清水山憩いの森と稲荷山憩いの森、土支田八幡宮の森があり、散歩の好適地です。五小の下流には遊水地を兼ねたわくわくパークがあり、川は笹目通りの下をくぐると向きを北～北東に変え、白子宿付近を通り、東上線の下からおよそ2kmで新河岸川に注ぎます。わくわくパークから国道254の新東橋までは川岸に道が無く、その下流は3面をコンクリートで護岸した緑のない都市河川です。この付近で、土管から流れ込む水は、下水のように見えますが、主に付近の湧き水からのきれいな水で、川の水質も良好です。



河川と流入水の調査



整備された越戸川

越戸川は源流を陸上自衛隊朝霞駐屯地とする4km弱の小河川で主に和光市と朝霞市の境を流れ新河岸川に注ぎます。

上流部右岸は地下鉄車両基地で敷地内から湧き水が流入し、また、東上線北側の越戸橋上流には、朝霞市の広沢池湧水からの支流が合流しています。河川内に植物が繁茂し、貴重種のナガエミクリも自生し、アユなどの小魚が多く見られます。中流域の日の出橋付近から下流では河川の整備が進み、谷中川との合流部には越戸川ふれあいゾーンが、また、赤池橋下流には赤池親水公園が整備され、夏の「ジャブジャブ大会」や秋の「越戸川まつり」は子供たちが川に入って大喜びのイベントです。

和光の小さな生き物たち

湧き水の多い和光市には、都市部で少なくなったきれいな水辺に生息するサワガニやオニヤンマ、オオシオカラトンボ、ヘビトンボが見られます。



サワガニ

オニヤンマ

ヘビトンボの幼虫

樹林公園などの草原や林にすむ昆虫として、美しいタマシやサトクダマキモドキ、オオカマキリ、チョウの仲間ではアゲハやアオスジアゲハ、クロアゲハなどを見かけます。セミの仲間はミンゼミやクマゼミが都市部で増えています。クヌギ林のカブトムシやクワガタは人気者です。夏の夜のセミの羽化は神秘的です。



サトクダマキモドキ

タマシ

オオカマキリ



アゲハ

クロアゲハ

アブラゼミの羽化

和光の樹木と緑地

和光市の木はイチチョウです。市役所近くの並木や、樹齢750年ともいわれる長照寺の大イチョウなど。桜は和光樹林公園の周囲や新河岸川沿いの福祉の里付近などに素晴らしい並木があります。白子宿の桜も風情があります。(写真)。



常緑樹としては、シラカシ、アカマツ、クスノキなどが代表的で、それぞれ熊野神社や新倉氷川八幡神社、樹林公園などにあります。

落葉樹としては、ケヤキ、ムクノキ、コナラ、クヌギ、イヌシデなどが代表的。コナラやクヌギは武蔵野の景観を代表する樹木で、白子川沿いの越後山の斜面に多く、また、大坂ふれあいの森、白子宿や牛房八雲台の特別緑地保全地区には落葉樹と常緑樹の混じる豊かな森が見られます。西大和団地のケヤキ並木は立派です。近年、和光市では都市開発で立派な森が失われ、身近な自然を残す施策が求められています。

緑地には、上記のような高木とともに、中高木や低木、さらに、林床の野草など、バランスのとれた植生が生物多様性を保ちます。急斜面では、クマザサやベニシダなどの下草が斜面の崩壊を防ぐ重要な役割を果たしています。低木のムラサキシキブやアオキなども斜面林の構成員です。



図は左から、ケヤキ、クヌギ、ムクノキ、コナラの葉を直接カラーコピーしたものです。